

【リーフレット】

病気療養中等の生徒に対する教育保障

～副校長・教頭先生方による紙面座談会～

北海道教育庁学校教育局高校教育課（令和5年（2023年）3月）

道教委では、入院・自宅療養中等の生徒（以下「病気療養中等の生徒」という。）に対し、ICTを活用した効果的な遠隔教育の実施方法の研究及び普及の促進等を目的として、本事業に取り組んできました。

高等学校等においては、インターネット等のメディアを活用して、同時双方向で行う授業（以下「オンライン授業」という。）を行い、病気療養中等の生徒に対し、当該授業を行った場合は、出席扱いとすることができます。

ここでは実際に病気療養中等の生徒に対し、オンライン授業等の教育保障を行った研究推進校の副校長・教頭先生方7名（A～G副校長・教頭）にお集まりいただき、本事業について色々と聞いてみました。このリーフレットを通して、病気療養中等の生徒への教育保障について御理解いただければ幸いです。

※特に他校の参考になると考えられる御意見については、朱書き・下線で示しています。

本事業を活用することとした理由を教えてください。

A 教頭

本校の生徒が、年度途中に、遠方である札幌の病院に長期入院することになり、本人・保護者も学習の継続と単位修得を強く希望していたためです。

C 教頭、E 副校長

本校も保護者からの申し出でした。

D 教頭

当該生徒が入院した病院から本事業の活用について提案があり、本人・保護者も活用を希望したためです。

F 教頭

本校も病院から提案を受けました。

B 教頭

本校では、当該生徒の疾病の状況に合った継続的な学習支援等を行うに当たり、必要となる校内体制やICT機器などを整えるため、本事業を活用することとしました。本事業の指定となることで、他の指定校と意見交流を行い、校内の支援体制づくりに役立てることができました。また、モバイル・ルーターなどのICT機器を貸与していただきました。

本事業を実施するに当たり、校内体制づくりを行ったと思いますが、特徴的な取組があれば教えてください。

B 教頭

校内ではサポート委員会が中心となり校内の役割分担を明確にしながら、病院・保護者と連携して、対応することとしました。当該生徒の支援に係る情報は、適宜、職員全体で共有しました。当該生徒の健康状況や家庭との連携は、主に該当学年が行い、入院先の病院から遠隔授業の配信については、情報教育部が行うなど、必要な支援と役割分担を明確にし、職員全体で共有して円滑な支援が行えるよう校内の体制づくりをしました。

E 副校長

事業運営組織（副校長・教頭・教務部長・学年主任・担任）を立ち上げ、事業の進め方を企画立案しました。さらに、教務部及び当該生徒の在籍学年からコーディネーターを選出し、教科担任・学年等との調整役を依頼しました。また、学習指導員を採用し、オンライン授業の準備を進めました。

F 教頭

学年主任と担任を当該生徒・保護者との窓口役としました。オンライン授業の実施に関しては保護者から病院に確認をした上で、実施方法を教務部やICT推進部に計画してもらいました。機器の扱い方については、教頭が保護者に説明して実施しました。授業を配信する各教科担任には、Google Classroomでの教材の配信を行うため研修会等を実施しました。

担当

まさに全校体制で取り組んでいただいたのですね。特にコーディネーター役の方が各種調整を担うことや、学年だけではなく、様々な分掌で役割分担することが鍵になると思います。ICT活用のための校内研修会も重要ですね。

病気療養中等の生徒に対するオンライン授業を行ったことで、学校としては対象生徒にどのような影響があったと考えていますか。

A 教頭

各教科で求められる学力を身に付けることももちろんですが、当該生徒・保護者からは、孤独な入院生活を過ごす上で支えになったという声をいただきました。授業の前後で級友とコミュニケーションを取る機会が増え、大きな励みになったと考えています。

C 教頭

当該生徒が病気と向き合いながら学校生活を続け

ようとする強い動機付けになるとともに、自信につながったなどのよい影響があったと思います。

D教頭

学習の遅れに対する不安を解消したり、学校とのつながりを感じたりするという心理的な面も大きいですよね。

F教頭

授業を通じて当該生徒と他の生徒の交流も生まれたようです。入院中の生徒と連絡を取って、情報を交換していた生徒もいるようです。学習面での意欲も高まり、当該生徒から、分からない部分について補習の要望も出てきました。

G教頭

オンライン授業を行うことで、登校して得られる満足感に多少なりとも近づくことができたと感じています。

対象生徒や保護者は、本事業についてどのような感想をお持ちですか。

B教頭

本事業を通じて、長期入院中の子どもが学校とつながっている感覚を持つことができたのがよかったそうです。

C教頭

保護者からのコメントを読み上げます。「長期にわたり、学校や病院に、多大な御支援をいただいたことを心から感謝しております。お陰さまで、本人は病気と闘いながらも、進路の目標を持ち、学校生活を送ることができ、卒業することができました。」

一同

(異口同音に、生徒や保護者から感謝のコメントをいただいたとの発言。)

担当

生徒や保護者の皆さんからそういったコメントをいただけてよかったです。

病気療養中等の生徒に対するオンライン授業を行ったことで、自校の教職員にどのような意識の変化等が見られましたか。

A教頭

使いたい人だけが使うのではなく、全ての教員がICTを活用することが求められていることを実感する機会になったと思います。

D教頭

本校もです。ICT機器を活用した授業の実施や教材の提供について、積極的に取り組む教職員が増えました。(G教頭、大きく頷く)

B教頭

学習の保障のための工夫や退院後に学校生活に円滑に戻るための準備、単位修得のために必要な当該生徒への手立てなどが教職員にとってより明確に意

識されるようになりました。

F教頭

教職員の中に、生徒のためにやらなければならないという意識が生まれ、ICT活用への機運が高まり、より効果的な方法を研究する教員も見られるようになりました。校内においては、課題の提示方法、学習日誌の記録などについて、一定の決まりがつくれ、現在では、コロナの出席停止生徒にも躊躇なく配信できる体制をつくることができました。

オンライン授業の実施に向けて、特に有効であった機材等は何ですか。

担当

事前に教頭先生方から伺っていた機材を挙げてみます。

- ・印刷機とスキャナー
- ・三脚
- ・ケーブルが長いタイプのUSBカメラ
- ・寝たままの状態で見られるようにするスタンド、アーム

他に、〇〇社のタブレット端末は画像が鮮明で使いやすいとのコメントもいただいておりますが、ここでは商品名を出さないようにしておきます。

オンライン授業において、特に留意した方がよい点がありますか。

B教頭

当該生徒のパソコンの画面に映っている板書が適切か、授業者の声量に支障はないかなどについて、当該生徒・保護者と連絡・連携を図りながら、授業配信の状況を適宜確認することが大切だと思います。

C教頭

それは重要ですね。それと、当該生徒の病状により、同時双方向での学習が困難な状況も想定されるので、後から繰り返し映像を見ながら学習できるオンデマンド教材を作成することも必要だと思います。

D教頭

病状や体調によって、キーボードが操作できない、ヘッドセットを装着できない、音を出せないなどの制限があるため、状態に応じた機材を迅速に用意できるとよいです。

担当

基本的な機材を用意して終わりではなく、状況に応じて素早く適切に対応することを想定しておくのですね。

E副校長

ICT機器に精通した学習指導員等のコーディネーター的な役割を担う人的支援があると助かります。

G教頭

教室内の音の集約が難しいです。また、機材が固定されるので、広角に見える設置場所やカメラの調

整が必要です。

A 教頭

これはオンライン授業を実施する際の前提条件ですが、病院によっては病室での Wi-Fi 使用を制限しているところもあるので事前に情報を入手しておき、対応策を考えておくとういと思います。

退院後、自宅療養又は学校に復帰することになった際に、留意したことは何ですか。

F 教頭

本校の場合、入院先の病院から、退院前のカンファレンスに学校も参加して欲しいというお話をいただき、教頭と担任が参加しました。詳しい説明をいただいたので、特に不安はありませんでしたが、定期的な投薬治療で体調が崩れ、自宅で療養する場合もあるとのことだったので、退院して登校する場合でも、必要に応じてオンライン授業を自宅で受けることができるように準備しました。

A 教頭、C 教頭、D 教頭

自宅でもオンライン授業が受けられるようにする準備は必要ですね。退院したといっても、体調が万全なわけではないので。

B 教頭

本校の生徒はこれから退院する予定なので大変参考になります。今後、当該生徒が教室移動をするなど、学校生活のシミュレーションを行い、実際の学校生活に必要な支援について事前に当該生徒・保護者と確認しようと考えています。また、その確認した内容を踏まえ、校内における支援の内容や方策をサポート委員会で検討し、職員全体で共有する予定です。

G 教頭

本校では、当該生徒が個別指導を希望した場合の日程調整なども検討しておくとうりきめ細かな学習保障ができると考え、実施しました。

その他、これから病気療養中等の生徒に対するオンライン授業を実施する学校に対するアドバイスはありますか。

A 教頭

本校では、オンライン参加中の授業時の最初と半ばと終わりに当該生徒からチャットで簡単なコメントをもらうことで、出席及び体調の確認をしていました。本人の体調もあるので、プレッシャーにならないよう気を付けた方がよいと思いますが、そうすることで本人にも参加意識を持って「しっかりがんばろう」という気持ちを芽生えさせることになると思います。

B 教頭

当然ではありますが、病院との連携を図り、当該生徒、保護者からの要望を十分に把握し、教職員全体で情報を共有しながら学校の支援体制づくりをす

るのがよいと思います。また、他校の先行実践事例が校内体制づくりを行う際にとても参考になります。

C 教頭

個人情報扱うこともあり、当該生徒の病状や治療の予定等について、詳しく把握することが困難な場合もあります。家庭や病院との十分に連携をとりながら、教育保障を進めていくことが重要です。

D 教頭

当日の治療スケジュールの確認や体調の変化等への対応の際、チャット機能を活用すると円滑なコミュニケーションが図れると思います。

G 教頭

病気は年度の切れ目と関係ないですが、事業は年度の切れ目で Wi-Fi 契約の更新が発生したりします。年度替わりの事務手続きをあらかじめ想定して準備したり、学年間での引継ぎをしっかりと行ったりすることが、当該生徒に必要な支援を届けるために重要です。

F 教頭

他の生徒と同様に授業を受けられず、不安を抱えている生徒や保護者のために、できる限りのことを学校は考え、それを実現するべきだと思います。ただ、状況によっては Wi-Fi が使えない病院もあるので、オンライン授業を実現するための体制づくりを道教委にお願いしたいです。場合によっては、オンライン授業という手段に限らず、より効果的な教育保障とは何かをみんなでつくっていくべきだと感じています。

担当

紙面の都合がありますので、事前にも色々いただいていた御意見を紹介して、座談会を終了します。

- ・病院と学校をつなぐコーディネーター的な存在の方がいると、保護者や病院との対応がよりスムーズになると思う。
- ・学校の時間割通りに同時双方向型の授業を行う際、病院の治療が優先されるため、受講できないことが度々あったので、治療スケジュールの確認が必要。
- ・学校で対応できることとできないことをしっかり保護者等と擦り合わせること。
- ・ダイナミックな学習活動をするために、実際のプリント等に生徒が書き込むことは重要なことだと考える。そのため、病室に Wi-Fi でデータを飛ばし、プリントアウトできるシステムを作ることに苦労した。

副校長・教頭先生の皆様、どうもありがとうございました。

【問い合わせ先】

北海道教育庁高校教育課高校教育指導係
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目
TEL 011-204-5764 FAX 011-232-1108